

第25回 TAMA NEW WAVE 受賞結果

グランプリ

『ライフ・イズ・ビューティフル・オッケー』 監督：石田忍道

特別賞

『松坂さん』 監督：畔柳太陽

ベスト男優賞

田丸大輔『ライフ・イズ・ビューティフル・オッケー』

ベスト女優賞

西口千百合『嬉々な生活』

お知らせコーナー

映画祭実行委員を募集いたします！

映画好きな方、イベント好きな方、映画祭が出来るまでと一緒に体験してみませんか？

TAMA 映画フォーラム実行委員会では、2025 年 11 月に開催される「第 35 回映画祭 TAMA CINEMA FORUM」に向けて実行委員を募集しています。

説明会を開催いたしますのでご興味ある方はぜひご参加下さい。

日時：

- ① 2025 年 4 月 6 日（日）15:30～16:45（受付開始は 15:15）
- ② 2025 年 5 月 18 日（日）15:30～16:45（受付開始は 15:15）

会場：多摩市永山公民館・講座室（ベルブ永山 3F）

*詳細はホームページをご覧ください。

映画祭支援会員を募集いたします！

映画祭を資金面でサポート頂ける映画祭支援会員を募集しております。

支援会員限定のさまざまな特典をご用意しております。

*詳細はホームページをご覧ください。

たまシネマ通信 2025 年春号 発行元：TAMA 映画フォーラム実行委員会

編集・デザイン：TAMA 映画フォーラム会報部会

企画・協力 TAMA 映画フォーラム実行委員会

お問い合わせ：TAMA 映画フォーラム実行委員会（事務局）

〒206-0025 多摩市永山 1-5 多摩市公民館（永山公民館内）

TEL：080-5450-7204（直通） FAX：042-337-6003

<https://www.tamaeiga.org/>

*掲載記事の無断転載を禁じます。

2025 年春号

たまシネマ通信

第 34 回映画祭ご来場ありがとうございました！



第 16 回 TAMA 映画賞授賞式



第 25 回 TAMA NEW WAVE コンペティション

第34回映画祭フォトレポート

ネタバレ注意!

実行委員おススメ映画



俳優・小関裕太のいま



10代を駆け抜けるフレッシュ・スター 齋藤潤・早瀬穂



特別先行レビュー 北村匠海初監督作品『世界征服やめた』



『青春ジャック 止められるか、俺たちを2』in TAMA



『辰巳』in TAMA



ぼくが生きてる、ふたつの世界



『トワイライト・ウォリアーズ 決戦! 九龍城砦』

(ソイ・チェン監督/2024年)

「めっばう強い悪役が活躍する映画は面白い。」そんな定説がぴったり。1980年代の香港、九龍城が舞台。そこに住む男たちの義・恩・友情を描く香港映画。山場となるアクションがいつもあり、飽きさせない展開と、多くを語らず観客に理解を委ねる適度な余白。登場するキャラクター全員に魅力があり、観たら必ずお気に入りが見つかるはず。香港の新旧の俳優が良い相乗効果をもたらしている。サモ・ハンを知ってる人も知らない人も、めっちゃくちゃ強いので驚くはず。観た後は、フルタのハイエイトチョコが欲しくなるし、叉焼飯をかつこみたくなる。そして、合言葉は「硬直!」

実は三部作で、前日譚と新世代の最終章がこの後も続く予定。(瀧)

『ブルータリスト』(ブラディ・コーベット監督/2024年)

第二次世界大戦のホロコーストを生き延び、アメリカへと渡った架空のハンガリー系ユダヤ人建築家ラースロー・トートが辿る運命を、215分間衰えない力強い筆致で描く。例えばこれを戦後ユダヤ人が辿った歴史の縮図として、或いはアメリカという国の抱える問題と接続して観てしまうことは容易だろう。

しかしそのような安易な語りが氾濫する近頃、そして自宅において何時間でも優れたドラマが観られ、映画そのものの形態が危うい現在にあっても尚、劇場の暗闇で本作と対峙する3時間半は、現代美術を前にした筆舌に尽くしがたさと、他の作品にない映像音響感覚に満ちている。よもや禍々しく丘に屹立するモダン建築が如し。見上げ、絶句すべく劇場へ足を運ぼう。(g)

『サイボーグー心太助』(河崎実監督/2025年)

「今日から君はサイボーグー心太助。サイボーグー! (ワン) ハートなのだ!」
一心太助の子孫である25代目一心太助はおせっかいでお人好しだが、困った人を見ると助けずにはいられない好人物であった。が、ある日、凶弾に倒れ命を落としてしまう。そして太助は上司の大久保専務によってサイボーグー心太助として蘇り、ライバル企業が開発したサイボーグのロック! (ワン) やコンドロイドと死闘を繰り広げるのである……。

『いかレスラー』『かにゴールキーパー』などの作品でおなじみの河崎実監督の最新作である。想像の斜め上を行くストーリー展開やエイトマンをオマージュしたサイボーグの造形など観るべき点は多く、特撮好き以外の方にもぜひご覧きたい。本作品は愛知県幸田町町村合併70周年記念映画である。(よ)